

梅毒って？

【病原体】

梅毒トレポネーマという細菌

【感染経路】

性行為、オーラルセックス等の直接接触感染、母子感染等

【症状】

感染後、経過した期間によって症状が異なります。

第Ⅰ期...感染後約3週間

初期には、感染部位にしこりができることがあります。また、股の付け根の部分のリンパ節が腫れることもあります。

第Ⅱ期...感染後数ヶ月

手のひら、足の裏、体全体にうっすらと赤い発疹が出ることがあります。発疹は治療しなくても数週間以内に消える場合があります、再発を繰り返す場合もあります。

晩期顕性梅毒...感染後数年

感染後、数年を経過すると、皮膚や筋肉、骨などにゴムのような腫瘍（ゴム腫）が発生することがあります。また、心臓、血管、脳などの複数の臓器に病変が生じて、重症化するケースもあります。

【治療】

一般的には外来で処方された抗菌薬を内服します。きちんと治療を行えば、完治させることが可能です。

梅毒患者 が 増えています

検査について

感染の有無を確認するには、血液検査を受ける必要があります。

症状があるなど、心配な場合は医療機関（男性：泌尿器科 女性：産婦人科）を受診しましょう。

妊婦の感染報告も...

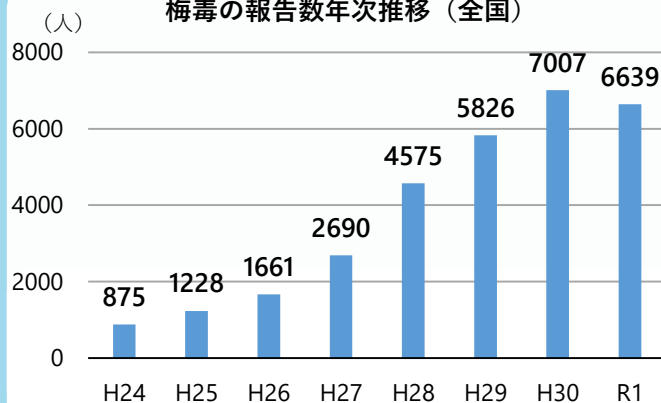
妊婦が梅毒に感染すると、胎盤を通して胎児に感染し、流産や死産の原因となったり、先天梅毒の赤ちゃんが産まれるリスクがあるため、特に注意が必要です。

予防について

性交渉の相手が増えれば感染する危険も高まります。複数の相手と無防備な関係を持たないことが大切です。感染を予防するためには、正しくコンドームを使いましょう。ただしコンドームを使用しても100%予防できると過信せず、皮膚や粘膜に異常があった場合は、性的な接触を控えましょう。

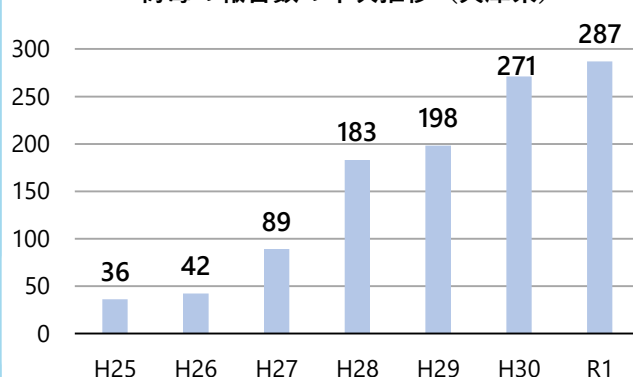
症状については厚生労働省ホームページ「梅毒に関するQ&A」をご覧ください

梅毒の報告数年次推移（全国）



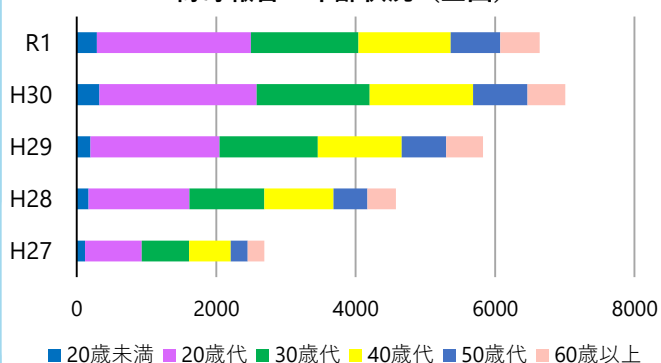
▶ 全国の梅毒の報告数について、平成22年以降の増加が顕著であり、令和元年（確定値）は平成24年の**7.6倍**となっています。

梅毒の報告数の年次推移（兵庫県）



▶ 兵庫県においても年々増加しており、平成29年は**198人**、平成30年は**271人**、令和元年には**287人**とさらに増加しています。

梅毒報告の年齢状況（全国）



▶ 梅毒は、全国的に増加が顕著！若い世代が特に増加！